

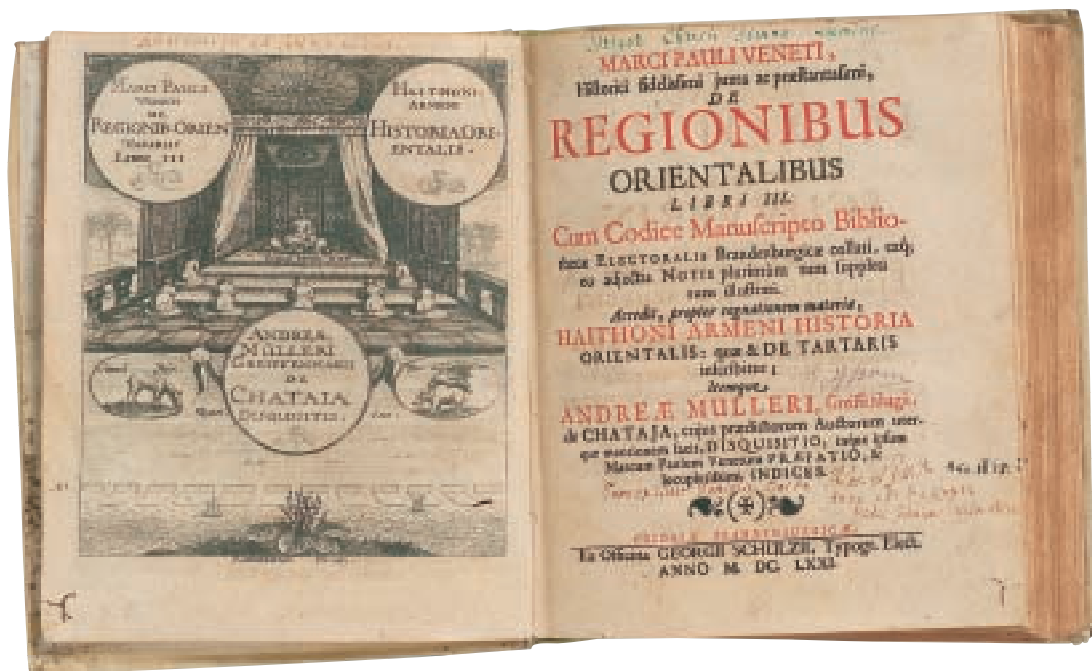
「雲岡石窟 第19-1窟 菩薩像頭部」

青山 有加 作

雲岡石窟は中国山西省大同市に位置する仏教石窟寺院で、本像は第19窟東脇洞の右脇侍菩薩（みぎわきじぼさつ）の頭部を模刻したものである。菩薩全体の高さは、約4.5m、頭部の高さは、宝冠を含め約1m。雲岡石窟の石質に極めて近い砂岩を中国から取り寄せ、原本を忠実に写し取っている。

北魏和平元年(460)、沙門統曇曜(どんよう)は、当時の皇帝文成帝(ぶんせいいてい)に奏上して、平城(現大同市)に雲岡石窟を造営する。それは、先帝がおこなった酷烈な廃仏後の、輝かしい仏教復興の一大事業であった。その後、石窟造営は精力的に継続されるが、都が洛陽に遷ると(太和18年・494)、徐々に衰退していく。(青山 有加)

図書館情報センター所蔵 貴重資料の紹介 (3)



ミューラー編 マルコ・ポーロ「東方見聞録」初版 1671年 ブランデンブルク刊

ドイツの東洋学者、言語学者のアンドレアス・ミューラーが編集。マルコ・ポーロの「東方見聞録」は、初めはフランス語で書かれ、その後各国の言語に翻訳された。ミューラーは、「東方見聞録」の複雑な伝承経路を調査し、今までのマルコ・ポーロのラテン語テキストに批評と注釈を加えた。この本は3部で構成されており、カタイ(中国)に関する部分が第2部におさめられている。(足立 祐輔)